資料３－１

国土審議会第 16 回北海道開発分科会における委員意見の概要

【計画全般】

- 北海道をめぐる状況が変化している中、国策上の北海道の位置付けを明確にすることが重要であり、我が国全体に如何に貢献するかという観点で、「世界の北海道」を目指すことは支持したい。
- 最終報告に向け、キャッチフレーズ、表現等をインパクトのあるものにしていくことが必要。

【地域構造】

- 「基礎圏域」の概念に基づく自治体間の連携の形成は、北海道のみならず、日本の地方自治体の持続可能性に不可欠であり、その先進的なモデルケースを形成することの意義は大きい。
- 札幌は北海道全体のダム機能を果たしてきたと言えるのではないか。
- 中間整理においては北海道をひとくくりで扱っているが、圏域を四つから六つ程度に分けて具体的に論じていくことも必要ではないかと考える。

【人材の育成・対流促進】

- 新たな公・共助社会については、国土形成計画では一つの軸となっている。シーニックバイウェイ北海道については、モデルの一つとして強調してほしい。
- 北海道内各地の大学は、「対流促進型国土」の概念における「対流」の熱源として、重要な役割を担うものである。
- 札幌の教育機関など、北海道内で育成された人材が北海道内に残れるようにすることが重要。

【食・農林水産業、観光などの振興】

- 食の総合拠点形成に関して、食品加工を強化し、付加価値を高めることの指摘は極めて重要。その際に、原材料の産地に近い地域で経済的対流を生じさせることが重要。
- 北海道農業の果たす役割は確かに大きいが、大規模化・法人化を推進するのみでよいか考慮してほしい。家族経営からのブランド化への取組も視野に入れるべきではないか。
- 栽培漁業の振興と輸出に腰を据えて取り組む必要があり、ＨＡＣＣＰ対応の港の整備や、空港・港湾と高速道路等との結節点を重視した交通網整備を進めるべき。
- 食、サイクリングに限られないあらゆるスポーツ、医療等について横串を入れる形で、独自のものとして発信して新たな観光産業を形成してほしい。
- 観光で航空を使ってもらうことが望ましいが、そこからの二次交通について、独自の取組を考えていくことが重要ではないか。
- ロシアとの関係は難しい局面にあるが、北海道がエネルギー産業を軸に発展することは意義が大きく、ロシアからのパイプラインの敷設により、大きな発展の可能性を有することになるのではないか。

【強靭な国土】

- 洋上風力発電や、再生可能エネルギーから水素を生成し、輸送・保存するシステムを北海道北部や日本海側を中心に確立すべきではないか。
- 防災・減災対策などのリスク管理におけるソフト面、ガバナンス面での体制整備を考えてほしい。また、民間投資を促進してほしい。